

介護なんでも相談室



松永安優美 まつながあゆみ
栃木県出身、内科医。埼玉医科大学卒。同大付属病院を経て実家の松永医院に勤務。平成3年から特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホームなどを設立。現在、医療法人「聖生会」理事長、社会福祉法人「裕母和会」会長として、医院と8つの介護施設を運営している。

Q

自宅が築30年を超え、補修が必要ですが、この機会に大幅にリフォームをして老後に備えたバリアフリー住宅にするつもりです。将来、私や妻が介護が必要になっても、自宅でヘルパーに介護してもらえると考えています。ただ、自宅リフォームのために貯蓄などはゼロになり、生活費は年金だけになります。この計画を進めても大丈夫でしょうか？ それとも自宅改修に費用をかけず、老後のための貯蓄を残しておくべきでしょうか？ 私も妻も68歳です。

A

補修は最低限一が必ずしも体にいいと
にしてはいかがはいえませんが、段差のあ
でしよう。外壁の廊下とか、階段を一日
がはげて雨漏りがするとに何度も上り下りするこ
か、土台の一部が白アリとは、筋力の維持につな
で腐食しているなどの状がります。体が動く間
況でしたら、ひとまず、は、むしろ段差のある家
その部分だけを補修すで足を上げ下げすること
る。貯蓄のすべてを注ぎが健康維持に大切なので
込むことには賛成できます。

せん。家は一生のもので バリアフリーのこと
す。でも、すべてを注ぎは、将来、本当に介護が
込むのは考えものです。必要となつてから検討す
以前も話しましたようべきです。介護認定を受
に、貯蓄がゼロになつてけ、介護が必要となれ
しまつと、急な大病のとは、自宅に手すりをつけ
きなどに困りますし、精たり、バリアフリー改装
神的にもつらく、気持ちする場合に補助を受けら
が後ろ向きになつてしまれ、経済的に助かります。
います。ですから、家の また、いざ介護が必要
ために全財産を投げ出すとなつと、お子さんとの
のでなく、やりたいこ同居も考えられますし、
と、楽しいことにお金をあるいは自宅を売却して
使うことをお薦めしま施設に入らざるを得ない
す。楽しい人生を送つ 状況も考えられます。
て、気持ちが明るくなれ 相談者ご夫婦がまだ体
ば、健康にもプラスにな が大丈夫なのであれば、
ります。 今から選択肢を狭めない

ことに、これが大事な ことが大事です。
ことですが、バリアフリ

(隔週連載)